

いぐさ栽培における雑草防除

財団法人 日本植物調節剤研究協会 九州支部長 高岡留吉

はじめに

わが国におけるいぐさ栽培は近年、地域特産の傾向がつよく、大部分は九州で栽培されている。いぐさ栽培は晩秋から翌年夏にかけて行われるので雑草防除も容易ではない。そこで、いぐさ田の雑草防除についての現況と問題点について検討してみた。

いぐさの関係資料については、福岡県農業総合試験場筑後分場い草栽培研究室、熊本県農業研究センターい業研究所、ならびに熊本県農政部農産課主任技師、足立士朗君から貴重な資料の提供をいただいた。取纏めに当っては、筆者の知識不足のため、不適正なこともあろうかと思うので叱正を頂きたい。

わが国におけるいぐさ栽培面積（第1表）は8,507ha、九州7,977ha、うち熊本県6,600haで全国の78%のシェアを占める。その理由は経営上、他の作物に比べて有利であることは勿論のこと、水利の便がよく、集団化しやすい。機械施設が整備され、省力化がはかられているなどがあげられる。

第1表 いぐさの栽培面積（平成元年度）

全国8,507ha

九州7,977ha。
熊本県6,630ha。福岡県1,160ha。佐賀県107ha。
大分県7ha。宮崎県30ha。鹿児島県1ha。沖縄県42ha。
中国237ha。四国261ha。北陸32ha。

農林水産省

1. いぐさの栽培面積

第2表 いぐさ栽培労働時間（10a）

その1

福岡県農業総合試験場筑後分場

作業別	育苗	耕起・整地	苗取・株分 植付け	除草	防除・施肥	先刈	杭打ち 網掛け	水管理	刈取・乾 燥・収納	その他	合計
時間	13.1	9.2	55.1	2.5	12.4	1.5	18	6.1	98.2	3.9	220

※ 20年前と比較して栽培法の変化（植付時期の早期化等）により、草種が多くなり除草時間がやや多くなっている傾向がみられる。

その2

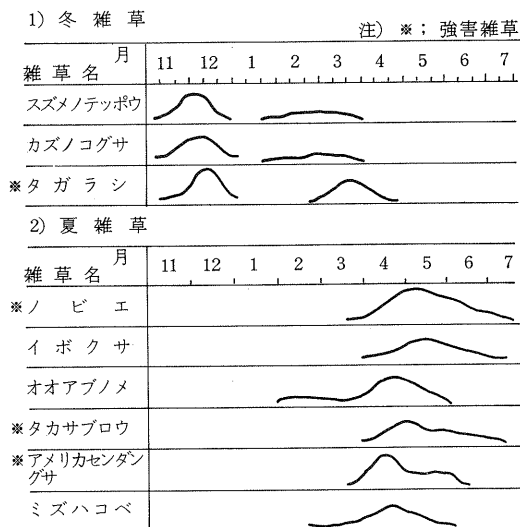
熊本県農業研究センターい業研究所

作業別	育苗	耕 起 地	苗取・株分 植付け	除草	防 除 肥	先刈	杭打ち 網掛け	水管理	刈取	泥ぞめ	乾 収	納 入	合計
時間	28	2	93	4	11	1	16	10	12	5	23		205

いぐさ栽培の労働時間は10a当たり 220～205 時間を要している（第 2 表その 1，2）。除草時間は 3～4 時間となっており、稲作並の作業時間である。しかし除草剤の効果が充分でなく手取除草を行う場合は多労となっている。

3. いぐさ田における主要雑草の発生

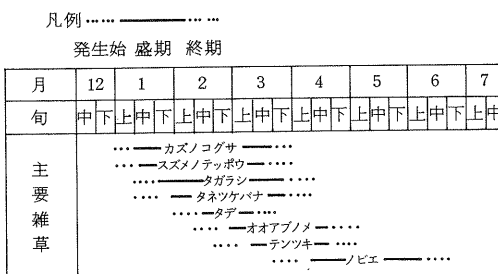
いぐさの栽培は植付けを11月下旬～12月中旬に、収穫は6月中旬～7月中旬に行われている。発生する雑草は11月から12月に発生する冬生雑草と3月から5月にかけて発生する夏生雑草に分けられる（第1、第2図）。



第1図 いぐさ栽培田における主要雑草の発生状況

冬生雑草の主なものとして
は、スズメノテッポウ、カズ
ノコグサ、タガラシ、タネツ
ケバナであった。夏生雑草と
してはノビエ、オオアブノメ、
マツバイ、アメリカセンダン
グサ等であった。

強害雑草としては、タガラ
シ、ノビエ、タカサブロウ、



第2図 いぐさ田における雑草の発生状況

能本県 い業研究所

アメリカセンダン等があげられている。熊本、い業研究所の雑草害調査によると、いぐさ栽培無除草区の減収率は20%を示し、特に商品価値の高い「長い」に対して悪影響が大きくみられた。また、収穫時の雑草害としては、刈取、すぐり作業の能率低下を招いている。

4. いぐさ栽培における除草剤の変遷

いぐさの生育期間は長期にわたり、しかも雑草の種類が多いので、除草剤が開発されるまでは、極めて重労働であった。昭和32年頃までは、手取り除草3回～4回が普通に行われていた。除草剤利用(第3表)は、昭和33年、クロロIPCの冬期施用から始まった。昭和37年にPCP粒剤の4月施用で顕著な除草効果がみられたが、PCPの魚貝類の被害とクロロIPCの薬害により、昭和40年、カソロン水和剤の2回処

第3表 いぐさ栽培における除草体系の変遷

能本 い業研究所

昭和年	第1回除草	第2回除草	第3回除草
昭33～36	クロロIpc 乳剤	手 取 り	手 取 り
37～39	クロロIpc 乳剤 + PCP 粒剤		手 取 り
40～42	カソロン 水和剤 + カソロン 水和剤		手 取 り
43～	カソロン 粒剤 + カソロン 粒剤		手 取 り
46～	カソロン 粒剤 + ニップ 粒剤		手 取 り
46～	カソロン 粒剤 + エックスゴーニ粒剤		手 取 り
59～	クレバー 粒剤 + ②		手 取 り
60～	①	②	+ クサガード水和剤
63～	①	②	+ ナ ブ 乳剤
63～	①	②	+ ワンサイド 乳剤

注) ①; カソロン剤またはクレバー粒剤
②; ニップ粒剤またはエックスゴーニ粒剤

理に変更された。さらに昭和43年、カソロン粒剤の実用化にともない、カソロン粒剤の体系が主流となった。しかしこの剤は漏水田の薬剤とノビエに対する効果不足がみられたため昭和46年、ニップ粒剤、エックスゴーニ粒剤が広く使われた。昭和59年、タガラシを対象として、クレバー粒剤が用いられた。昭和63年、ノビエ2～5葉期に処理する補正防除用として、ナブ乳剤、ワンサイド乳剤が普及に移された。

5. いぐさ除草剤の使用基準

いぐさ除草剤使用基準は福岡県においては(第4表)、植付後にエックスゴーニ粒剤、2月中、下旬にカソロン粒剤、3月中旬から4月上旬にクレバー粒剤が使用されている。ノビエの残草に対しては、ノビエ2～5葉期(先刈期頃)にナブ乳剤、ワンサイド乳剤などによる補正防除が行われている。

熊本県においては(第5表)2月上旬～3月

第5表 いぐさ除草剤使用基準

熊本県

散布回数	散布時期		薬剤名	散布量 (10a当たり)
	早刈	普通刈		
第1回	2月上旬 ～3月上旬 2月上旬 ～2月下旬	2月上旬 ～3月上旬 2月下旬 ～3月上旬	クレバー 粒剤 カソロン 粒剤 プレフィックス粒剤 カソロン 水和剤	3 kg 3～4 kg 3 kg 200～250 g
第2回	3月下旬 ～4月上旬	4月下旬 ～4月中旬	カソロン 粒剤 プレフィックス粒剤 MO 粒剤 エックスゴーニ粒剤 モーダウン 粒剤 カソロン 水和剤	3～4 kg 3 kg 4～5 kg 3 kg 4 kg 200～250 g
第3回 (補正)	4月上旬 ～5月下旬	4月上旬 ～6月上旬	ナブ 乳剤 ワンサイド 乳剤	150～200ml 100～200ml

注) いぐさ田における除草剤利用が比較的高いものとしては、

第1回 カソロン粒剤

第2回 エックスゴーニ粒剤

第3回 ワンサイド乳剤、ナブ乳剤

上旬(第1回散布)クレバー粒剤、またはカソロン(粒、水和剤)。夏生雑草の発生期に当る3月下旬～4月上旬(第2回散布)に、MO、エックスゴーニ、モーダウン粒剤が使われている。ノビエの残草(2～5葉期)に対する処理剤としては、福岡県と同様に、ナブ乳剤、ワン

第4表 いぐさ除草剤使用基準

福岡県

サイド乳剤が使用基準に上っている。

除草体系	冬 雑 草		夏 雑 草		月				
	タガラシ	スズメノテッポウ	ノビエ	広 葉	12	1	2	3	4
1	無	多	中	中			① カソロン 粒剤 (3～4kg)	② クレバー 粒剤 (3～4kg)	
2	多	多	中	中	① エックス ゴーニ粒剤 (3～4kg)		② カソロン 粒剤 (3～4kg)	③ クレバー 粒剤 (3～4kg)	
補(共 正防 通除)	先刈期に2～5葉期のノビエが残った場合はナブ乳剤(150～200ml)、ワンサイド乳剤(100～200ml)又はタルガフロアブル(100～150ml)で補正防除を行う。								

注) いぐさ田における除草剤利用率が比較的高いものとしては、

第1回 エックスゴーニ粒剤、カソロン粒剤

第2回 クレバー粒剤

第3回(補正防除) ナブ乳剤

6. いぐさ栽培上、耕種的な雑草防除

1) 耕起、整地代かきを丁寧に行い、雑草の発生を揃え、除

草剤の効果を高める。また水管理を適正に実施することが作業の基本である。

- 2) 除草剤に頼って、耕種的防除を軽んじる傾向が強い。近年増加している広葉雑草は休耕田、畦畔が発生源である場合が多いので、耕起や草刈りを行うなど、水田環境を良くする必要がある。なお、熊本県においては、いぐさ植付2ヶ月前の代かき、雑草刈払が指導されている。
- 3) いぐさ植付期が近年早まっているため、雑草発生も早くなり、除草剤散布も一回増加している。従って、適期植付けに戻す必要がある（筑後分場、熊本い業研究所）。
- 4) 今後、機械移植技術の確立、普及するものと考えられるが、機械移植に伴う雑草防除技

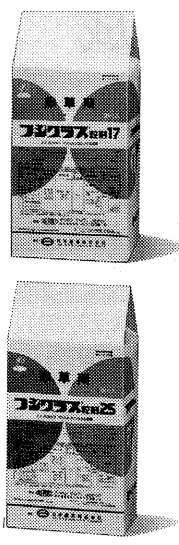
術が必要である（筑後分場、熊本い業研究所）。

おわりに

いぐさの栽培は晩秋から翌年の夏期に亘るため、発生する雑草も冬生雑草から夏生雑草まで多種類である。従って、除草剤の適正使用と併せ、耕種的な雑草防除が大切である。

いぐさ除草剤として望まれることは、雑草に対するスペクトラムの拡大、広葉雑草に対する選択殺草力の増加。在圃期間が長いだけに、低成分で効果の持続性の長い剤の開発等である。

九州におけるいぐさ栽培は、沿岸地帯が多いので、魚貝類を始め、人畜に対し危被害のない低毒性の安全な薬剤が要望される。



水田除草に一発解答。

効きめに、安全性に、
実績が光るフジグラス。



初・中期一発処理除草剤 フジグラス[®]粒剤

(注)「フジグラス」は登録商標です。

●フジグラス粒剤の特長

- ① 幅広い雑草にすぐれた効果を示します。
- ② 多年生の難防除雑草にもよく効きます。
- ③ 処理適期幅が広く、散布に余裕がもてます。
- ④ 抑草期間が長く、一発処理ができます。
- ⑤ 水稲に安全性が高く、安心して使えます。

●使用薬量

10アール当り 3kg。

●使用適期

田植後5日～15日(ノビエ2.5葉期)が使用時期ですが、ノビエ2葉期の処理がもっともすぐれた効果を発揮します。



フジグラス普及会
日本農業株式会社 デュポン ジャパン リミテッド
アイ・シー・アイ・ジャパン株式会社
事務局：日本農業株式会社 東京都中央区日本橋1丁目2番



水田除草、新時代。